

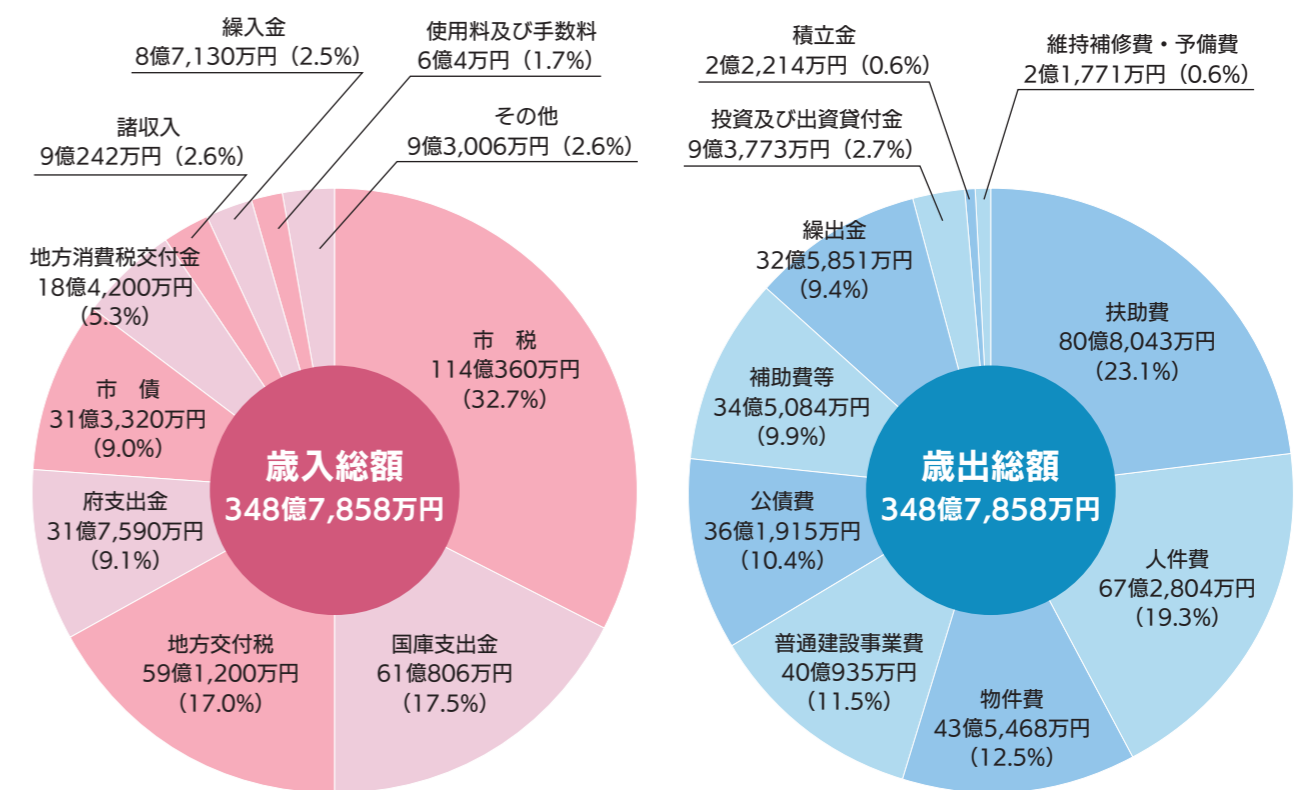
「心が通う便利で豊かな田舎暮らし」の実現に向けた施策を推進

令和2年度は、第7次総合計画で掲げた、新たな技術を導入した持続可能な未来型のスマートなまち「心が通う便利で豊かな田舎暮らし」の実現に向け「心豊かに暮らせるまちづくり」「安心のまちづくり」「活力あるまちづくり」の3つのまちづくり戦略に取り組みます。

既存事業や経常経費の見直しを進めるとともに、国や府の補助金、企業版ふるさと納税など、さまざまな財源の積極活用に取り組み、基金の取り崩しを抑制しつつ、前年度よりも増額した予算を編成しました。財源確保により、積極的に施策を推進する一方、特に人件費は、臨時・非常勤職員の任用制度改正により全国的に人件費が上昇傾向にあります。中でも、多様な任用制度の活用や最適な勤務形態の人員構成などに取り組み、昨年度と同程度の予算に抑制しています。

今後も、市税収入の減少や人口減少・高齢化等社会構造の変化、頻発する自然災害による市財政への影響などを見据え、収入の範囲内での歳出予算編成を基本とし持続可能な財政運営に取り組みます。

一般会計	348億7,858万円	前年度との比較 6億5,611万円 増↑
------	-------------	----------------------



特別会計	178億2,177万円	前年度との比較 1億2,514万円 増↑
国民健康保険事業会計	78億8,397万円	2億6,048万円 減↓
貯木事業会計	104万円	1万円 増↑
駐車場事業会計	7,312万円	2,156万円 増↑
介護保険事業会計	84億6,079万円	2億4,619万円 増↑
後期高齢者医療事業会計	14億285万円	1億1,786万円 増↑

公営企業会計	115億3,412万円	前年度との比較 2億9,704万円 減↓
水道事業会計	35億1,370万円	2,810万円 減↓
下水道事業会計	69億5,050万円	1億4,965万円 減↓
病院事業会計	10億6,992万円	1億1,929万円 減↓

当初予算の詳細な内容は、市ホームページでも紹介しています。

一般会計の予算約349億円を、月収34万9千円の「まいづる家」の家計簿に例えると…

今月のまいづる家は、給与は下がってしまいましたが、家族が頑張ってアルバイトをするなど、家計を支えてくれました。また、節約のおかげで貯金の取り崩しを減らしつつも、収入全体をみると先月より増えたので、必要な家の増改築やローンの返済、貯金などに充てました。一方で支出を見ると、医療費や子どもの教育費など、今後も簡単には減らせないものが多いので、来月以降もやりくりには注意が必要です。

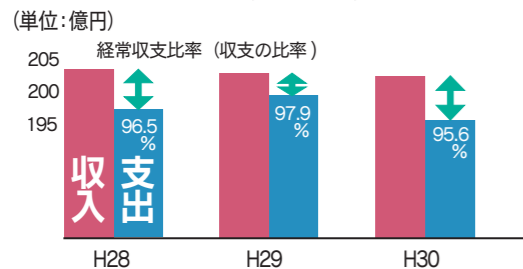
収入 (市の財政にあてはめると)	金額	先月比	支出 (市の財政にあてはめると)	金額	先月比
給与(市税)	114,000円	1,000円↓	医療費(扶助費)	81,000円	±0円
家族のアルバイト収入(国・府支出金、地方交付税など)	178,000円	13,000円↑	子どもの教育費や仕送りなど(繰出金、投資及び出資貸付金、補助費など)	77,000円	1,000円↓
ローンによる借り入れ(市債)	31,000円	1,000円↓	食費(人件費)	67,000円	±0円
家賃収入(諸収入、使用料や分担金、財産収入など)	17,000円	2,000円↓	光熱水費や日用品の購入(物件費)	44,000円	±0円
貯金の取り崩し(繰入金)	9,000円	2,000円↓	家の増改築や修繕費(建設事業費、維持補修費)	42,000円	6,000円↑
			ローンの返済(公債費)	36,000円	1,000円↑
			貯金・その他雑費(積立金・予備費)	2,000円	1,000円↑
計(一般会計歳入合計)	349,000円	7,000円↑	計(一般会計歳出合計)	349,000円	7,000円↑

『まいづる家』の家計簿

舞鶴市の現状

持続可能な財政運営に向けて

舞鶴市の決算の推移(一般会計)



※経常的な収入に占める支出の比率がH29より2.3%下がっています

市税などの経常的な収入に対する扶助費などの経常的な支出の割合を経常収支比率といいます。

インフラなどが一定整備され、優先すべき施策が福祉や子育て、教育などの充実にシフトしており、全国の多くの自治体でも総じて上昇傾向にあります。

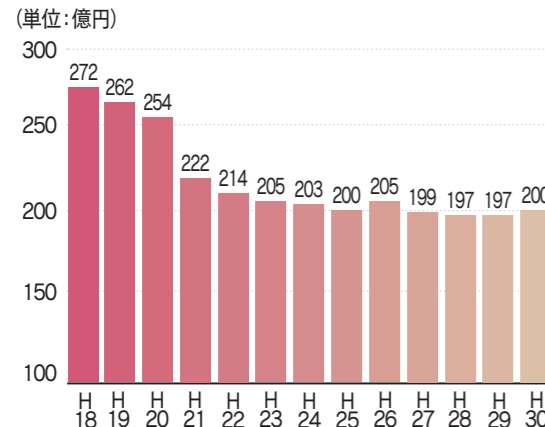
市税収入などが減少する中であっても、新たな財源確保や事業の見直しにより、収入と支出のバランスをとりながら必要な市民サービスを提供していきます。

建設地方債の新規発行額を抑制

建設地方債とは、道路・河川などの整備を行うための借入です。

残高を減らすため、返済額を借入額よりも多くした予算の編成を心がけた結果、計画的な返済が実を結び、地方債残高は減少傾向です。

建設地方債の推移【決算】

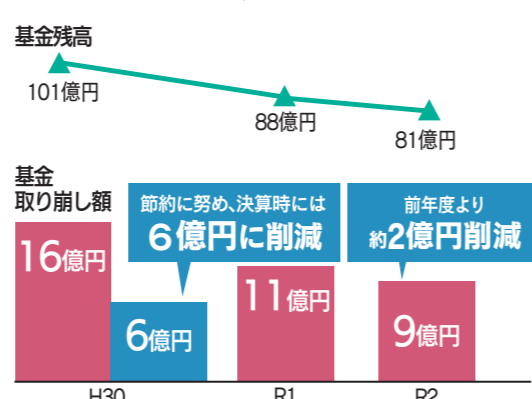


基金の取り崩し額の抑制

基金とは、災害など予期せぬ支出や税金など収入の減少、公共施設の整備などに備える舞鶴市の貯金です。

令和2年度は、さまざまな財源確保に取り組んだことで、基金の取り崩し額を前年度より約2億円減らしました。

令和2年度 基金取り崩し額【予算】



※基金残高、基金取り崩し額ともに、H30は決算額、R1とR2は決算が未確定のため予算額を表しています。